在今柴田郡前川村、温泉乃其地、東面湯舍廂下望之、名取大倉山大森館等入座上、來屋下設湯舍、東西六間、南北二間有半、板其半、下廼湛湯之處也、其上頭可二間、有温泉而涌出於山間、自是設木筧、長短四架、其二長筧直達舍東、而流落左右短筧亦令其落湯舍、又去湯舍二間許、有土橋、令木筧通于橋下、而至下流、又去此可三間、自茲別設長筧、横三架、而旋之及下、湯舍方四間、其筧流噴吐而落舍下、病頭風者受之、則忽得其驗、自泉流至此凡二十間、又自坐下設小廊、至湛湯舍、此處禁雜浴而不許焉、其下乃衆人群集、雜浴惟多、

湯刈田温泉

〔奥羽觀蹟聞老志四名蹟〕湯刈田山北有温泉

山岳尤峻嶮、荒栗、大森、大刈田、甘塚諸山相並、其北有温泉、能治瘡毒癩病等、仍謂之湯刈田、

〔類聚名物考地理三十五〕なるこのゆ　陸奥

鳴子温泉

〔奥羽觀蹟聞老志八玉造郡〕啼兒温泉　郷俗作鳴子字非也、須考之事實、

在啼兒村、自岩畔出、克治瘡疾、其下亦有温泉、此地也、相傳往昔義經北行、夫人開胎于龜毀坂、仍辨慶養之笈中、來於茲地、始出呱々聲、故後人號啼兒、温泉在其地、神名帳所謂温泉神社是也、

〔奥の細道〕南部道遙にみやりて、岩手の里に泊る、小黒崎、みつの小島を過ぎて、なるこの湯より、尿前の關にかゝりて、出羽の國に越えんとす、此路旅人稀なる所なれば、關守にあやしめられて、漸として關をこす、

大湯温泉

〔東遊雜記二十〕大湯は町にて、温泉四ヶ所に在り、湯の出る處は各違ひあり、二の湯は疝氣中風によし、殘る二ッは濕毒によし、何れも功ありと見へて、入湯せる人も數人有しなり、〇中略大湯村より西北十和田山の山陰に方三十七八町の湖有、〇中略すべて此邊の山中には熱湯の湧所多しといふ、何れを聞ても硫黄湯なり、

淺虫温泉

〔東遊雜記十九〕淺虫、御畫休になる、此所は、青森より三里といへども、大に遠く、此地海濱にのぞみ